

文 集

なぎさ

第 79 号

なぎさ和楽苑

令和5年11月7日発行

「礼儀」一考

苑長 池田めぐみ



今年はスポーツが熱い。野球、サッカー、バレーボール、水泳、バスケットにラグビーと海外で日本選手が競いあっている姿を見ると、遠く感じていた世界が近くに見える。そんなスポーツの世界で話題になるのは日本人の礼儀、マナーである。選手控え室使用後の清掃、応援に駆けつけたサポーターのゴミ拾い、相手チームへのリスペクトなどがメディアで話題になる。

一方で、試合に熱くなって暴動へとエスカレートしてしまう行為や飲食業界では多大な損失となった昨今の迷惑行為も同時に報道されるが、これも同じ日本人の行為である。

迷惑行為といえば残念ながら当苑の建物周辺にも、たばこの吸い殻、ペットボトル、空き缶などがポイ捨てされていて、建物を一周するだけでビニール袋がいっぱいになる。これらゴミのポイ捨ては、ひとつの環境問題であり、迷惑をかける行為であることを学ばなければならぬ。自分の好きな部分だけルールやマナーを守り、それ以外は守れないというのは残念な話である。

日本人が大切にしてきた礼儀は、柔道、剣道など武道によって心技体を一体として鍛え、人間形成の道とした教えに由来するとも考えられ、スポーツ全般にそれは浸透している。相手に迷惑をかけること、ルールを守ることは成長する過程の中で学び形成されるものなのだろう。また、社会人になって、ビジネスマナー、接遇研修等で、あいさつの方法や名刺交換、言葉遣いなどを学ぶ機会があるが、テクニクとして上手にできたとしても、相手を思いやる心、本質を理解していなければ、相手には伝わらない。

礼儀という一言の中には、挨拶、マナー、ルールを守るなど様々な要素が含まれると思う。接遇研修もまさに思いやりの心を育むことに通ずるような心技体を一体として鍛え、人としての成長につながるよう取り組みたいものである。

≡ 家族会総会 ≡

令和5年4月30日(日)に第44回家族会総会を開催いたしました。今回は家族会のPRを兼ねて、会員だけではなく非会員のご家族にもご案内し、多くの方にご参加いただきました。新型コロナウイルス感染症が流行してから約3年、その間の総会は主に書面議決で実施してまいりましたが、今回は久しぶりに対面で行われ、緊張感とともに皆様のご協力で開催できたことの喜びを強く感じました。

総会は会長の進行の下、令和4年度事業報告並びに会計報告や役員改選、令和5年度事業計画並びに予算案、行事への参加協力・家族ボランティアの件について質疑応答の後、賛成多数で可決・承認されました。



会の終わりでは今回の総会をもって退任される会長、副会長、幹事の皆様よりご挨拶をいただきました。お母さま、お父さまのご入居していた頃の思い出話や幹事を担ってくださった理由など、貴重なお話をいただきました。また、今年度から4名の方が新たに幹事を担ってくださることになりました。過去から現在に至るまで、家族会に携わってくださったご家族の思いを受け止め、引き続き、ご家族とともに運営していけるよう努めてまいります。



長寿を祝う集い

令和4年9月18日、なぎさ和楽苑最大の慶事である敬老行事を行いました。今回も感染症対策を講じ、規模を縮小し、ご入居者様と職員のみでのお祝いとなりました。

ご入居者様には式典の様子をリモートで、各ユニットのリビングでご覧いただきました。式典の中では長寿の方と、「米寿」「喜寿」などの節目の方をご紹介するとともに、介護員からお祝いのメッセージをお送りいたしました。メッセージにはこれまでの活躍や日頃の感謝が綴られており、ご入居者様の素敵なお人柄が読み取れました。式典後には新田太鼓様に演奏をご披露いただきまし

た。太鼓の演奏は体だけでなく心にも響き、全身で楽しめるといわれています。次こそは生の演奏をご入居者様、ご家族、ボランティアの皆さんと楽しめることを願っております。また、ボランティアの方からご入居者様に、車椅子や杖などに使用できる名札や四つ葉のクローバーの飾り立て、写真立てが贈られました。喜ばれている様子に、私たち職員もうれしくなりました。

今回も多くの方のご協力により「長寿を祝う集い」を開催することができました。ありがとうございます。



TOPICS

夏のリモートボランティア



今年も東京ボランティア市民活動センター様主催の「夏のリモートボランティア」に参加しました。今回は「長寿を祝う集い」に合わせ、「オリジナル手作りフォトフレーム」と「お祝い動画」のプレゼント企画を実施しました。数々の素敵なデザインのフォトフレームや、気持ちが込められた心温まるお祝い動画をご入居者様へお届けすることができました。

ご参加いただいた皆様へ心よりお礼を申し上げます。



地域のお祭りに参加しました



4年ぶりとなった「清新町・臨海町ふれあいまつり」、「南江戸川ふるさとまつり」、「葛西『四季の道』・新田地域ふれあいフェスティバル」に、熟年相談室のPRコーナーを出店いたしました。当日は晴天に恵まれ、待ちに待った皆さまの思いがあふれるような、大変盛況なおまつりとなりました。

お子様からご高齢の方まで一緒に楽しめる「けん玉」や「ジェンガ遊び」、スマホやタブレット操作に親しんでいただきながらの「脳トレ」などの催しとともに介護情報の発信を行い、「熟年相談室」をPRしました。お立ち寄りいただいた皆様、ありがとうございました！ テントに掲示していた「昭和の三種の神器」(皆さま



お分かりになりますか!?) の写真が目を引いたようで、ご年配の方が子どもたちに「これは冷蔵庫なんだよ〜」などと教えている光景に、私たちも心が和む楽しい一日となりました。

デンマークから学ぶ「ノーマリゼーションセミナー」

令和4年11月20日



バンクミケルセン記念財団理事長 千葉忠夫先生によるセミナーが江戸川区のタワーホール船堀で開催されました。

デンマークは世界157カ国の中で、「最も幸せな国」として選ばれたことのある国です。社会保障制度が充実し、貧困や差別もなく、個人の尊厳や意思を大事にしている、民に特化した世界でも有数の福祉国家です。前述にもありますが、「ノーマリゼーション」の生みの親バンクミケルセン生誕の地であり、障害を持つ人も、持たない人も、地域の中で、同じく生活ができる環境作りが大切であると唱えております。

セミナーでは、デンマークの歴史と文化に触れながら、デンマークの社会保障制度についてや教育、政治等さまざまな視点から福祉先進国の取り組みを詳しくご紹介いただくとともに、現地での生活につ

いて貴重なお話の数々をお聞かせくださいました。

千葉先生は若き日に単身でデンマークにわたり、今日に至るまでデンマークと日本を繋げる懸け橋として活躍なさっています。なんと、バンクミケルセン氏にもお会いしたことがあるそうです。



海外研修再開

コロナ禍でしばらくの間中止となっていた当苑の海外研修が再開できることとなりました。研修では千葉先生にご案内いただきながら、スウェーデン、デンマーク、ドイツを巡り、各国の介護施設や名所を訪れ、現地の暮らしを肌で感じることができる素晴らしい機会となっております。

祝!百寿



当苑で生活されている黒田徳子様様が6月に100歳の誕生日をお迎えになられました。当日は、同じフロアのご入居者様や職員が集まったほか、江戸川区福祉部長の森淳子様にご来苑いただきました。記念すべき日を皆様と一緒に盛大にお祝いすることができ、職員一同、大変喜ばしく感じております。

当日は、森部長様からのお祝いの言葉、江戸川区からの記念品の贈呈、平井施設長代理からのご挨拶、なぎさ和楽苑からのプレゼント、ご家族からのお手紙など、盛りだくさんの内容でした。最後に、職員特製のくす玉を用意し、一度目は割れませんでした、二度目はきれいに割れ、会場は和やかな雰囲気になって、とても素敵な式典となりました。



オンラインボランティア喫茶

令和4年9月3日



コロナ禍以前にボランティアの方々から地域交流スペースで開催していたボランティア喫茶を、オンラインと

いう形で初めて実施しました。久しぶりにボランティアの方が淹れてくださったコーヒーやアイスをいただきながら、ご入居者様とボランティアの方をオンラインで繋ぎ、各ユニットでのんびりと交流をしていただきました。以前、ボランティア喫茶に足しげく通っていたご入居者様は「やっぱり淹れたてのコーヒーはおいしいね」とおっしゃっていました。

初めての試みでしたが、今後のボランティア活動の活性化につながる課題を見つけることもでき、とても有意義な時間になりました。



よりあい処プロジェクト

今年度の4月より、よりあい処の活動がパワーアップして戻ってまいりました。現在、週2回のプログラムを各担当が用意し、感染対策を講じた上で、ご入居者様にお越しいただいております。

水曜日は音楽の時間で、歌唱はできませんが、ピアノの演奏を聴いていただける時間を設けたり、簡単に弾ける楽器の演奏を体験していただいております。

金曜日は、ぬり絵や習字、工作など好きなことを行う時間や、ボランティアの方々によるオンラインコンサートを鑑賞していただいております。ご入居者様に「また行きたいな、楽しみだな」と思ってもらえるような時間をご提供できるよう、日々プログラムを考えております。



実際にピアノ演奏に参加された方からは、「久しぶりに思い出の曲を聴いて涙が出ました」「今日はよりあい処があるから楽しみです」などのお言葉もいただいております。これからも自由に、楽しくご参加いただける“場所”を皆様にご用意したいと考えています。

なぎさ和楽苑におけるBCP

事業継続計画（BCP）とは、大地震などの自然災害や新型コロナウイルス等の感染症のまん延、サプライチェーン（供給網）の途絶など不測の事態が発生しても、事業を中断させない、中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方針、体制、手順を示した計画のことをいいます。

すべての介護サービス事業所・施設において、令和6年3月31日までに、災害や感染症のまん延などが起こっても、最低限のサービス提供を維持していく同計画の策定が運営基準に定められました。当施設では計画の策定および職員の訓練だけでなく、委託業者や近隣の町会、自治体や他の福祉施設との相互連携を意識した計画の見直しを行っています。

職員とサービスを利用する方の命を守るために事業継続計画はとても重要なものとなります。



フリーサロンあしたばの活動紹介!

あしたばでの最近の活動をご紹介します。

【就労支援】

「みんなの就労センター」と雇用契約を結び、「あったかハウス」の草むしりを行っております。暑い日、寒い日、風が強く吹く日もありますが、熱心に取り組むメンバーの姿勢に感心させられます。『仕事をする充実感』を皆さんが口にしていらっしゃいます。



【あしたばマルシェ】

5階の平和菜園では、メンバーが野菜を育てています。育てた野菜を自分たちで調理し食すに加え、販売を目的とした「あしたばマルシェ」の準備が着々と進んでおります。過日は、夏野菜（ミニトマト、ピーマン、なす、きゅうり）の苗をホームセンターで購入し、植え付けをしました。日々手入れや水やりを行い、値段や売り方などはメンバーで話し合っ決めていきたいと思います。

【あしたばアート展Ⅲに向けて】

昨年の8月、タワーホール船堀で開催した「あしたばアート展Ⅱ」では、あしたばメンバーの作品（約550点）を展示し、好評を博しました。「あしたばアート展Ⅲ」は前回、前々回を上回る展示会にすべく鋭意準備中です。

以上に加え、外出、外部との交流なども企画しております。今後もさらなる前進を目指してまいります。

TOPICS

五月人形を展示しました

毎年、ボランティアの方にご協力をいただき、1階の地域交流スペースに展示している五月人形ですが、今回は特養のご入居者様にもぜひ間近で見ていただきたいという思いから、期間限定でしたが、5階のよりあい処入り口の横に展示しました。

ご入居者様だけでなく、ご家族様たちからも「こんなに立派な五月人形は久しぶりに見た」「写真を撮りたい」などのお声をたくさんいただき、大変好評でした。



認知症ケア学会発表

令和5年6月3日・4日、国立京都国際会館で開催された、第24回日本認知症ケア学会大会にて、特養3階で小山拓也・山内佑美両介護員が中心となって取り組んだ「食事スタイルシートを活用した食事支援の取り組み」について発表する機会をいただきました。



簡単に説明しますと、ご入居者様の食事の様子を記録し課題を抽出した後、職員みんなで解決策を考えることで、ケアの質の向上を目指す試みです。

取り組み後、以前よりも食事の様子を細かく知ることができ、また、職員間での対応策の共有化も容易になりました。結果としてご入居者様にとっては食事の時間がより有意義に、職員にとっては技術の向上や対応の統一化が可能となったことで、ケアの質の向上に繋がりました。

食事に限らず、ご入居者様に楽しく過ごしていただくには「その人を知る」ことが求められます。日々忙しい業務の中、なかなか容易なことではありませんが、私の周りには同じ志を持った職員が数多くおります。皆で一丸となって、ご入居者様に笑顔で過ごしていただこう、今まで以上に努めてまいりたいと思います。

(3階 百合・蘭 大城潤治)

TOPICS

食品自販機を設置しました

施設の近くには手軽に買い物に行ける店が少なく、「急な勤務変更や小腹がすいたときに利用できる、食べ物の自動販売機があると嬉しい」と、職員から要望がありました。



アレンジメント委員会で検討し、福利厚生の一環として地下職員食堂内に食品自販機(カップ麺、パン、カロリーメイト、お菓子)を設置しました。「忙しくて昼食を用意できなかったときに利用しています」「喫茶ブリッサがお休みの日に購入しています」「夜勤の休憩時に利用しています」と、購入したことのある職員からは「助かっています」と好評です。

新田小学校マーチングバンド



今年も新田小学校の生徒の皆様が、なぎさ楽苑の苑庭でとても素敵な演奏を披露してくださいました。当日は天候にも恵まれ、青空に響く心地良いハーモニーと、一生懸命に演奏する姿に、ご利用者の皆様はとて喜ばれ拍手喝采。コロナ禍で交流の機会が少なくなっている中、貴重な時間を共有でき、大変感謝しております。

は天候にも恵まれ、青空に響く心地良いハーモニーと、一生懸命に演奏する姿に、ご利用者の皆様はとて喜ばれ拍手喝采。コロナ禍で交流の機会が少なくなっている中、貴重な時間を共有でき、大変感謝しております。

ご入居者様より



白井 親久様

令和元年に入所してから、早4年が経ちます。私は小学生の頃より模型作りが好きで、時間があるときは、戦闘機や飛行機などの模型を作っていました。ここに来てからも、部屋に飾るスペースを作って模型を飾っているほか、木材を切ったりの作業もしています。

なかなか場所もないので難しいですが、本当は鉄道のジオラマを作れたら良いなと思っています。

文集に寄せて

職員より



福祉・介護関係の職種を考えたのは、高校1年生のときでした。遠方に暮らしていた母方の祖母が介護を必要とする状態でしたが、家族介護、病院の看護の末に亡くなりました。私は何もしてあげられなかったという後悔がありました。高校2年生になり、進路について話している際に、担任の先生から「これから福祉、介護分野が必要なた時代になってくる」と聞き、祖母のことを思い出し、この世界に進もうと決めました。

そして、専門的な知識・技術を身に付けるために、福祉系専門学校の社会福祉学科に進学しました。実習先で知的障害者の施設に行ったとき、同年代の方が障害を
持ちながら一生懸命に作業されていたり、明るく過ごしている姿を見たりして、一度、障害者分野へ就職しましたが、高齢者分野で仕事をしたいという気持ちがあったので、平成15年、なぎさ楽苑に入職しました。早いもので今年勤続20年となりました。入職時は、平方前施設長より「特養を知らなければ何もできない」との言葉があり特養に配属となりました。特養では介護の基本から応用までさまざまなことを先輩介護員から学びました。その経験を生かし、くつろぎの間・訪問介護・居宅介護支援とさまざまなセクションを体験させていただきました。

現在は介護支援専門員として職務についておりますが、入所系・在宅系の経験を生かしつつ、ご利用者様・ご家族様と接することができています。しかし、まだまだ学ぶことはたくさんありますので日々努力しております。今後も自分のペースでありますが、福祉分野に貢献できるように頑張りたいと思います。

なぎさ楽苑さわか相談室 居宅介護事業所 ケアマネジャー 吉村 拓

令和4年度

公益社団法人日本社会福祉弘済会 社会福祉助成事業(研究事業)

令和3年度「家族介護者支援ネットワーク構築に関する研究」と題し、区内家族会・オレンジカフェの実態調査および支援機関へのニーズ調査を実施し、家族会等の後継者問題、資金・場所・支援者等の資源不足の課題ほか、家族会等の認知不足など、実態の把握をいたしました。令和4年度は、実態調査の結果を基に「家族会等と支援機関が共に課題に取り組めるネットワークの構築」を目指し、助成を受けることができました。

令和4年度 事業概要

- (1) ネットワーク連絡会の開催 (令和4年10月30日)
- (2) 小地域でのネットワーク活動 (令和5年1月25日)
- (3) 家族介護者支援ネットワークセミナー (令和5年3月4日) 「家族介護者支援の輪を広げよう! ~江戸川区の家族等活動を考える~」
- (4) 江戸川区家族会・オレンジカフェ紹介パンフレット作成

3月のセミナーでは、杉並区で家族会活動を幅広く展開しているNPO法人杉並介護者応援団の北原理良子理事長より家族会活動の実践報告、行政との連携の在り方、家族介護者支援の在り方など熱い志を発信していただきました。その後、江戸川区福祉部介護保険課、区内家族会・オレンジカフェ運営代表者で「江戸川区の家族会等活動を考える」と題してパネルディスカッションを開催しました。家族介護者、行政機関、区内家族会、地域包括支援センター等各関係機関のご協力により、家族介護者支援推進の土台作りおよび関係者への情報提供・発信に取り組むことができました。令和5年度も家族介護者支援について考え、引き続き取り組んでまいります。

と題してパネルディスカッションを開催しました。家族介護者、行政機関、区内家族会、地域包括支援センター等各関係機関のご協力により、家族介護者支援推進の土台作りおよび関係者への情報提供・発信に取り組むことができました。令和5年度も家族介護者支援について考え、引き続き取り組んでまいります。

TOPICS

よりあいの会



令和5年4月2日(日)に、よりあいの会を開催しました。感染症対策でごく少数で行いましたが、なぎさ楽苑公園の桜を眺めながらのお散歩やお茶を楽しんでいただきました。

思い出話や最近見たテレビの話など、会話にも花が咲き、楽しいひと時となりました。参加された方からは「コロナで集まりがなかったからとても楽しかった」と笑顔が見られました。



新人歓迎会を終えて

職員自治会による新人歓迎会が令和5年5月に開催されました。適切な距離を保ち、マスク着用などの感染症予防対策を講じながらも、参加者の楽しむ笑顔が見られ、有意義な時間を過ごすことができました。飲食は控えましたが、テーブルごとに歓談する機会が生まれ、交流が深まりました。「交流すること」はとても重要で、交流の場を通じて職員間のつながりを深め、良好な職場環境を築く役割がある



と考えています。また、日常生活や職場でのプレッシャーや悩みを共有し、他者の支えや理解を受けることで、心の負担が軽くなります。誰かと話すことで感情を発散させることもでき、思いを共有し共感を得ることで、孤独感も解消できます。その結果、職員個々のメンタルヘルスを良好に保つきっかけ作りに役立ちます。

職員自治会では、そのような役割が果たせるように努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

施設運営御賛助御芳名

(2022年4月～9月)

■御寄贈の部

イオン葛西店 店長 大森明美様、若狭
将末様、(株)ワイズマート 名誉会長 吉
野喜信様、(株)ステージ様、認定特定非営
利活動法人ハンスオン東京 事務局長
加地はるみ様、尾形喜義様、平原万里子様
東京都公衆浴場業生活衛生同業組合 江
戸川支部長 中山光雄様、坂本米様、(社
団)食品ロス・リボンセンター様、小
柳洋治様、高瀬潮様、森幸男様、(株)サポ
ー ト 代表取締役 中島和紀様、本山富士
子様、東京臨海東ロータリークラブ 会
長 今西勇様、大原和夫様、若松佳奈子様
花キュービット東京ブロック協議会 ブ
ロック長 田中健一様、翊飛(株)様、松山

平方俊雄前理事長が 「春の園遊会」に出席しました



令和5年5月11日(木)、4年ぶりに開催さ
れた天皇・皇后両陛下主催の春の園遊会に、
平方俊雄前理事長ご夫妻が招待され出席い
たしました。

当日は雨模様のあいにくの天候でしたが、
各界を代表する招待者とともに令和初とな
る園遊会で、天皇・皇后両陛下より、温か
なお言葉を頂戴しました。

公式SNS紹介

当苑では新たな幅広い世
代への情報発信手段とし
て、公式SNSを開設いた
しました。Instagram (イ
ンスタグラム) の公式アカ
ウントと公式YouTubeチャンネルになり
ます。今後も個人情報保護に配慮しつつ、
当苑の取り組みをタイムリーかつ、わかり
やすく発信してまいります! ぜひご覧くだ
さい!

Instagram
公式アカウント:
@nagisawarakuen



YouTube
チャンネル



文集なぎさ第79号

(令和5年11月7日発行)

社会福祉法人 東京栄和会 なぎさ和楽苑

発行者 苑長 池田めぐみ
編集 「なぎさ」文集委員
(生馬・梅原・中村)

〒134-0088 江戸川区西葛西 8-1-1
info@tokyoeiwakai.or.jp
https://www.tokyoeiwakai.or.jp

TEL.03-3675-1201 FAX.03-3675-1203

制作 (株)明光企画

明子様、小松寿子様、(株)吉田製作所・ク
ロステック(株)様、東京善意銀行様、特定
非営利活動法人日本介護支援協会、平野
様、小倉幸治様、柳笑栄様、加藤淳子様
不二聖心女子学院東京地区会、若狭綾
様、曾根泰代様、嶋田美保様、モンデリー
ズ・ジャパン(株) 谷口様、日本紙パルプ
商事(株)様、鷲頭幸恵様、関正弘様、根本様
(旬)花銀 代表取締役 田中敏也様、在宅・
訪問マッサージぶどうの樹 マッサージ
師 森田和重様、土屋政一様

■御寄付の部

(株)ワイズマート 名誉会長 吉野喜信様
伊藤昭勝様、山下セイ子様、二階堂由香様、
布施敏子様、森山義一様、渡辺いと子様
渡辺厚子様、河野節子様、相澤文白江様
*心温まるご支援に感謝いたします。
尚、苑行事に伴うお祝いは割愛させていた
だいております。

後援会加入のお願い

皆様方の温かいご支援とご
協力をよろしくお願ひいたし
ます。

■お申し込みは
社会福祉法人東京栄和会
なぎさ和楽苑後援会
事務局まで
江戸川区西葛西 8-1-1
☎ 03-3675-1201

会費 個人 一〇 1,000円
団体 一〇 5,000円

会長/安斎久喜 事務局/平井剛

資格取得者(敬称略)
認知症ケア上級専門士 池田めぐみ
認知症ケア専門士 大城潤治
介護福祉士 阿部脩治・小野里嘉睦・
小山拓也・工藤かおり・近藤愛莉・鈴
木一美・程島優志
社会福祉士 徳永和美
皆さん、おめでとございます。

編集後記

- 特養で生活相談員をしております梅原でございます。今年度より、文集の担当を務めさせていただきます。皆様に和楽苑のホットなトピックスをお届けできるよう全力で頑張ります! (梅原 淳一)
- コロナが5類へ移行となり、様々なイベントが再開されています。当苑でも少しずつ元の生活へ戻ると思います。文集なぎさも忙しくなりそうです。皆様からお力添えをいただきながら、一緒に「文集なぎさ」を作っていきたいと思ひます。(生馬 健一)
- ボランティア担当として1年が経ちました。さまざまなことを経験していく中で、地域の皆様との関わりが大切であることを学びました。地域と施設を繋ぐ役割として、少しでも多くの皆様に当苑の情報をお届けできるよう、広報担当としても精いっぱい頑張っておりますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。(中村 達也)